

若手奨励研究 研究成果報告書（概要）

研究課題名：看護技術のオンライン授業の検討

～学内演習における陰部洗浄の学生記録の分析から～

研究者名：伊尾喜 恵

2020年からのCovid-19の感染拡大に伴い、本学の基礎看護学領域では看護技術の授業の一部にオンライン授業を取り入れ、学生の感染予防と学修の機会の両立を図っている。2021年度、陰部洗浄の授業（2年次生）はオンライン授業と対面による演習を実施した。今回、学生の学びとオンライン授業とのつながりを分析し、より効果的なオンライン授業を展開できるための教授方法を明らかにするために研究に取り組んだ。

【目的】陰部洗浄のオンライン授業および演習後の学生のレポートを分析し、学生へより効果的なオンライン授業を提供できるための教授法を明らかにする。

【方法】2021年度に行ったオンライン授業内容とその後の演習状況の記述と、オンライン授業と演習後のレポートをデータとした。オンライン授業の記述より、学生が陰部洗浄を修得する過程においてどのような意味があったのかという観点で特徴を抽出した。演習状況の記述から学生の行動特徴を抽出した。次に、オンライン授業と演習後のレポートを精読し、学生が陰部洗浄の目的や部分行動とその意味をどのように描き、さらに演習により学びがどのように広がり深まったかという観点で学びの特徴を抽出した。学生の学びの特徴とオンライン授業および演習状況の特徴とのつながりを分析し、より効果的なオンライン授業の方法について検討した。

【結果】オンライン授業はTeams会議機能を用いて双方向で実施した。陰部の特徴や陰部洗浄の目的を押さえ、独自の動画教材を用いて陰部洗浄の方法を示した。さらに男性陰部モデルを用いて部分行動を中継した。観察の視点を具体的に描けるように臀部の異常な皮膚の写真を示した。また、学生が主体的に学ぶために設定事例患者の陰部の清潔をどのように保つかを検討するグループワークを行った。学生は設定事例に対し、患者の陰部の不快感や羞恥心を想像し、陰部洗浄の必要性の判断、露出を最小にする方法や観察の必要性を検討していた。演習はオンライン授業から約1カ月後に実施され、事前にオンライン授業の録画を視聴するよう連絡をした。学生は患者役・看護師役のいずれか体験し、ケアの流れに沿った物品配置や汚染を広げない湯の流し方、十分に汚れを落とし患者の不快感が最小となる洗浄の強さなどを確認しながら実施していた。

学生のレポートより、オンライン授業では自己の陰部が不潔になる体験を想起し、患者の不快感と陰部洗浄の目的を描いていた。設定事例への検討を通して具体的なケアの流れと患者の状況を描き、対象にあわせて陰部洗浄の必要性を見出すことを課題としていた。演習では、患者・看護師双方の立場から陰部洗浄の部分行動と患者の思いをより具体的に描き、陰部洗浄を安楽な体位等の既習技術を含めた複合技術として修得しようとしていたことが明らかになった。

【考察】オンライン授業の録画により学生は繰り返し学習内容を確認でき、さらに演習を行うことで患者にとって心地よい洗浄方法や効率的にケアを行える物品配置を明確にすることができていた。学生は患者の立場から陰部洗浄を修得しようとして取り組んでいることがわかるが、オンライン授業だけでは陰部洗浄の部分行動を具体的に描くことが難しかったと言える。以上より、学生が陰部洗浄を他者に使える技術として修得するためには、より細やかに患者の状況を想像し部分行動を現実的に描けるような授業展開の工夫が必要である。日常生活援助技術の学修には、どのような授業形態でも、学生が自身の日常的な体験を具体的に想起することで援助が必要な患者の状況を描くことに繋がり、技術の目的と部分行動を明確に描けることが重要であると考えられる。